

第七回お茶の水小学校・幼稚園施設整備検討協議会 議事要旨

日 時：平成 29 年 12 月 7 日 18 時～19 時 30 分

会 場：お茶の水小学校 2 階ランチルーム

出席委員：名簿順（敬称略） ■出席 □欠席

■山崎充彦委員 □須賀雄一郎委員 ■篠田加奈子委員 ■永田佳織委員
■志摩さおり委員 ■倉木嘉代子委員 ■高山肇委員 ■角谷幹夫委員 ■西角邦夫委員
■影山純子委員 ■角谷幸男委員 □中村榮太郎委員 □渡邊圭一委員 ■石澤長一郎委員
■木村美佐子委員 ■小林泰治委員 ■田近恭一委員 ■土屋希美委員 ■五味美智子委員
□菅野豊委員 ■角谷幸子委員 ■小林かおり委員 ■浅川宏委員 ■小川賢太郎委員

オブザーバー：■清水智子 ■松内幸子 ■小阿瀬弘道 □平井秀明

事務局：■小池正敏 ■佐藤久恵 ■赤石晃朗 ■田島学 ■早川陽平

山下設計：■原田聡 ■松本晃治 ■荒木了 ■蒲健太郎

傍聴者：3名

議事：

1. 開会あいさつ（会長）

2. 配布資料確認（事務局）

- ・資料—1：お茶の水小学校・幼稚園施設整備検討協議会 協議会ニュース第 6 号
- ・資料—2：お茶の水小学校・幼稚園施設整備検討協議会（基本設計業務） 検討スケジュール
- ・資料—3：学校施設見学会の写真資料
- ・資料—4：新校舎への要望整理
- ・参考資料：お茶の水小学校・幼稚園 既存施設調査報告書

3. 設計事業者に決定について

- ・前回の第 6 回協議会から今回までの間に設計事業者が(株)山下設計に決定した。
- ・山下設計の出席者、原田（建築担当、管理技術者）、松本（営業担当）、荒木（建築担当、主任技術者）、蒲（建築担当）を紹介。

4. 今後の検討スケジュールについて（事務局）

- ・資料 2 の通り、12 月 7 日（今回）から 3 月下旬まで 13 回、協議会の開催を予定したい。今年度中に基本設計を終えたい。
- ・12 月下旬から 1 月中旬の第 8 回、第 9 回では配置計画の案を検討していきたい。第 10 回からは、基本設計の内容の検討に入ることになる。1 月中旬から 2 月上旬までの間に配置計画を固め、基本設計に入っていく。
- ・第 10 回～12 回では、「学習環境の向上」や「防災機能」、「公園との連携」、「緑化・環境配慮」、「地域開放」、「学校の歴史の継承」、といったテーマを数回に分けて検討していく。
- ・この通りのスケジュールで進めたいとは考えているが、あくまでもこれは予定である。万が一遅れが出た場

合には必要な対処をしたいと考えている。このスケジュールに関して、意見や質問等があれば、ご自由に発言をお願いしたい。(会長)

- ・(特になし) (委員)

5. 学校施設見学会の実施状況について

- ・11月13日に千代田区立富士見小学校、中央区立明正小学校の見学会を実施した。見学会には委員24名中14名が参加。
- ・山下設計から2校の施設の概要や仕様について報告し、その後意見交換を行った。

<校庭について>

- ・天然芝は養生期間の問題もあり、狭い敷地での子どもたちの運動スペース確保を考えると難しいのではないかと。(副会長)

<体育館について>

- ・体育館が最上階や地階ではなく中間階に置かれていることに驚いた。(会長)

<プールについて>

- ・プールを幼稚園と小学校の共用にして、床の高さを調節して使えばよいという話があったが、先日の見学を経て、幼稚園には専用の小さなプールがあるとよいのでは、という気持ちになった。(会長)
- ・プールにふたをして人工芝を敷き、運動場として使う例は参考になった。(副会長)

<学習環境について>

- ・オープンの教室は開放的な半面、今回のように見学会の来訪者等の動きが子どもたちに影響を与えてしまうように思う。落ち着いた学習の場をつくるのが難しく感じた。明正小はオープン教室ではないが明るい印象を受けた。多目的室の床にはレールが出ておらず、大変工夫されていると感じた。(副会長)
- ・内装が落ち着いた色調で好ましく思った。最近の学校に何うと、壁が白く、明るい色を取り入れ、天井も高い、オープンな利用を意識した学校を散見する。ニーズにもよるが、開放感が先にたちすぎていて学習環境としてはどうなのか、と感じることもある。落ち着いて学習できる環境にしていきたい。(副会長)
- ・オープン教室の学校では、子どもたちが自分たちで仕切りをつくらうとしているように見えた。物が雑然と並んでいる様子が見えるのも気になる。子どもたちにとっても、外から見ても、本当に良いものなのか疑問。(副会長)
- ・後から追加されたガラスの間仕切り壁が目についた。最初から部屋としてつくってあれば良かったのでは。こういったことのないように考えていただきたい。(副会長)
- ・明正小に関しては、オープンにできる部屋とそうでない部屋を見比べることができた。現在はオープン教室でつくる構想があるようだが、基本的には間仕切り壁のある教室をつくり、オープンにして使える部屋も用意する、という作り方をしたほうが今後の児童数の増減を考えた時にも使いやすいものになるのではないかと。(副会長)

<建物の動線について>

- ・富士見小学校は、複合施設であることもあり、案内されても少しわかりづらい動線であった。逆に明正小学校は、同じ複合施設であるにも関わらず、大変わかりやすいシンプルな動線で良かった。(副会長)

<建物の配置について>

- ・明正小学校はここよりも狭いくらいの敷地だが、ピロティを使った50mの直線レーンなど、都心ならではの

工夫がされていた。(会長)

- ・ビルに囲まれているせいかガラスを多用しているように思われ、大丈夫なのかと思ったが、強化ガラスのため割れたりケガをしたりすることはないらしい。(会長)
- ・2校の工夫を見て、ああしなければ、こうしなければと言っているより、設計上でうまく処理してもらうことで色々な工夫が考えられるかも、という気持ちになった。(会長)
- ・個人的には、校庭を南に配置するのが良いと思う。都心でどうやったら子どもたちにより多くの日光を届けられるのかを考えてもらいたい。それが気になるところである。(副会長)

6. 新校舎への要望の整理

- ・前回までの協議会の議事要旨等を確認し、みなさまの要望を整理した。今回は建物の配置計画を決めるための、特に重要な4テーマについて説明する。テーマは、「校庭の位置」、「体育館の位置」、「プールの位置」、「構造形式」の4つ。(山下設計)

〈校庭の位置について〉

- ・【説明】校庭の位置の選択肢としては、建物を北側に置き校庭を南にとる案、その逆に北に校庭を確保する案、そして人工地盤をつくり屋上に校庭をつくる案の3つがあると思われる。(山下設計)
- ・園庭の確保についても考えて頂きたい。(会長)

〈体育館の位置について〉

- ・【説明】地下に体育館を埋める場合、自然採光や自然通風がとりづらくなる。採光通風確保のためのドライエリア(空堀)を設けるのが通常であるが、空堀による校庭面積への影響がある。また、水の処理、洪水時の水害対策を考えなければならない。一般的な建築工事では土を掘る工事の工期が一番長く、コスト増にもつながる。そのあたりのことも考慮が必要。地上階に置いた時と比べると、開口が少なくなることも。屋上や中間層に体育館をもってくる例もある。この場合は、校庭との連携が少し取りにくいこと、下の階への振動や騒音への留意が必要になる。(山下設計)
 - ・避難所として考えた場合はどこに置くと使い勝手が良いのか。避難所としての利用を想定した計画をしていただきたい。(委員)
- 災害時には物資の搬入等、外との連携を考えなければならない。そういった面では地下の体育館は少々不利だと考える。また、地階の場合は人の出入りのための動線を大きく取る必要がある。換気等を考えても避難所としての地階体育館は少々不利。それに対して地上の体育館は、物資の搬入や人の移動の面で有利であると考え。(山下設計)
- ・体育館を上階に持っていく場合、体育館並みの大きさは必要ないが地階に講堂がほしい。そこが避難所にもなり普段の集会や子どもの遊びなどにも使えると思う。(会長)

〈プールの位置について〉

- ・【説明】屋外に設置するのか、屋内化するのか、またそれが屋上にあるのかそうでないのかを検討する必要がある。学校では屋外プールが一般的だが、その場合はプライバシーの保護、強風や熱気対策を考える必要がある。また、屋外の場合には加温式を採用するのかどうか、可動床を採用するののかも考えながら計画していく。屋上プールの場合、可動式の屋根をかけることも可能になる。屋内化したプールでは、採光通風の確保、結露、結露によるさび、塩素への耐策、天井の落下防止などが留意事項となる。(山下設計)
- ・見学先の学校はみんなプールを屋上に置いていた。非常用の水の使用を考え、工夫してもらいたい。(会長)

<構造形式について>

・【説明】耐震構造と免震構造を比較して、揺れ方の違い、免震構造における免震層とクリアランスについての説明を行った。(山下設計)

・免震と耐震は、先にどちらにするのかを決めなければ設計を進めることはできないのか。ある程度配置等が決まってから選ぶことは可能か。(委員)

→可能。(山下設計)

・耐震構造と免震構造はどちらが丈夫なのか。(委員)

→建物の構造体には人命の保護、財産の保護といった目的がある。人命の保護という意味ではどちらでも目的を満たしているが、財産の保護、業務継続性に関しては免震に分がある。学校は業務の継続性やBCPの観点から、またコストの上昇や工期の延長を理由に免震構造の学校がなかなか普及しないと考えられる。安全・安心といった面からみれば、当然免震の方が高性能。この建物に免震構造を採用することが本当に効果的であるかを整理し確認していかなければならないと考えている。(山下設計)

・免震と耐震とで丈夫さは変わらないのか、重量のあるRC構造の上にプールを置くことができるのか。(委員)

→水は比重が高く重いものだが、コンクリートがそれによって耐えられないことはない。今はコンクリートの耐用年数を65年として計画しているが、100年建築を目指すことも可能で、コストをかければ建物の寿命を延ばすことができる。それは免震でも耐震でも変わらない。揺れについては、免震のほうが小さい。学校は、地震後の図書室の本の入れ直しが大変だと聞くが、その点には免震が強いといえる。(山下設計)

・直下型の地震ではどちらにしても同じだと聞いたがそうなのか。(会長)

→基本的に免震ゴムは横揺れに対応するもの。直下型の地震に対する免震構造の挙動はデータがまだ少ないため明言できない。(山下設計)

・今までの会議ではぜひ免震にしてほしいとの意見が多く、できれば免震で進めたい気持ちはある。ただしそれぞれにメリット・デメリットがあることが分かったため、今はなんとも言えない。みなさんはどうか。(会長)

→もしよければどういう納まりになるのかをみたい。(委員)

→配置の案を見ながら免震が良いのか、耐震が良いのかを議論していきたいと考えているがよろしいか。(会長)

→それでよい。今回押さえておきたいのは免震・耐震それぞれの特徴と、学校では免震の採用事例は少ないということ。もう一点、免震を採用した場合は工期が延びることをご承知いただきたい。(山下設計)

・コンクリートを100年もたせることは可能なようだが、免震ゴムは同じだけもつのか。(会長)

→もつとは言われているが、ゴムなので100年もつとは考えにくい。ジャッキアップして入れ替えを行うことになる。(山下設計)

<学習環境について>

・【説明】学習環境に関する参考として、オープンスペースのつくり方・使い方とアクティブラーニングを見据えた多目的スペースのつくり方・使い方を紹介した。児童が個人や集団で、時と場合によって、同じ場所を多用途に、色々な活動に使えるようなスペースを考えていきたい。(山下設計)

・教室に関してはオープンでないものの方がいいと思う。(委員)

→そのことについては、今後検討するとして、まずは建物配置について要望を出したい。(会長)

・小学校職員からの要望として、「日当たりの確保」、「100mトラック、50mの直線が取れる校庭の確保」、「基

本的にはオープンでない教室形態」、「十分な準備室が確保された特別教室」、「ICT 対応等、新しい機器に対応できるような設計」が出た。(委員)

- ・幼稚園職員からは「必要に応じて仕切りができるようなオープン保育室の確保」、「教材室と隣接した保育室の配置」が要望としてあがった。(委員)

〈動線・ゾーニングについて〉

- ・幼稚園と複合しているが、シンプルな動線の学校が良い。また、見学会に参加して廊下は広い方が良いと感じた。(委員)
 - ・小学校と幼稚園、アフタースクールが複合している。それらを管理できるようなものを前提として、明正小のような昔ながらの学校らしさが感じられるシンプルな校舎が良いのでは。明正小の建物をこの敷地に持ってきてもよい気がするが、もっと良いものを考えたい。(会長)
 - ・プールや体育館を開放するのであれば、アプローチの動線が短い方がよい。(委員)
- 体育館やプールは地域に開放する予定か。(会長)
- 学校の授業や行事で使うのが基本で、空きがあれば地域に開放するという形にしたい。そのため、動線の整理等は必要だと考えている。(委員)
- 動線は非常に重要な要件なので、考えていく。(山下設計)
- ・プールを通年開放する計画があるのかどうか、確認したい。(副会長)
- 今後の検討としたい。(委員)

〈その他〉

- ・校庭のレベルは海拔どれくらいか。(委員)
- 海拔 7m くらい。(山下設計)
- ・先ほど避難所の話が出たが、避難所として必要な物品をできるだけ一か所にまとめて保管したい。(会長)
 - ・配置計画がある程度決まった後に、みなさんの要望を精査し反映させていく。まずは、4つのテーマ(校庭、体育館、プール、構造形式)について、良い悪いではなくこういった考え方があるということを説明した。次回、このような考えに基づいて複数案の提示ができたかと考えている。(山下設計)
- 次回に検討案をいくつか持ってきてもらおうが、個人的には協議会の要望等を抜きにした、設計者がこの環境で最も良いと思うものを示してほしいと思う。地域で一番の学校をつくりたい。今できる限りの技術を使って、今後、他の参考になるような学校を作っていけたらと思っている。(会長)

7. 児童保護会からの報告事項

- ・第 6 回協議会后、保護者に対してアンケートを実施した。保護者から質問・要望として、「仮校舎として使う予定の旧九段中校舎までの通学の安全確保」、「送迎等の有無」、「H31 年の夏休みを経て 2 学期からということになっているが、それが学校にとって、子どもにとって望ましいのか」、「オープン教室はあまり希望しない」、「プールを屋内化」、「保護者の通学通園のための駐輪場の確保」などがあがった。「学区外の仮校舎に通うのが心外」という意見もあった。
- ・10 月 25 日に実施した保護者と教育委員会との意見交換会では、「スクールバスによる通学は 1・2 年生だけなのか」、「ばらばらの下校時間への対応ができるのか」、「バスの停留所は何か所用意されるのか」、というバスの利用方法に関する質問が出た。区からは、バス停はお茶の水小学校近辺の区の土地に設けるとの説明

があった。

- ・仮校舎は、基本設計完了時に適した場所を選ぶ予定であるため、まだ旧九段中学校で決定ということではない、と回答があった。現在校庭を使用しているスリーアローズ（野球チーム）のために倉庫の設置や広さの設定を行ったらどうかという意見もあった。
- ・仮校舎や仮校舎への通学については、保護会長、区とで議論していただいて、必要であればこの協議会でお話しいただき、議論することとしたい。（会長）

8. 今後の予定について

次回日程：12月22日（金）18時から お茶の水小学校ランチルームにて

- ・委員から、次回資料を事前に配布してほしいとの意見が出た。タイトなスケジュールだができるだけ前もって配布できるようにしたい。（委員）
- 努力する。（山下設計）

以上